

配管を進むヘビ型口ボ

が無いことや、改修による変化が図面に反映されていないため、実際の配管と異なっている事象が多い。配管工事の際には、壁を壊して配管場所を特定しなければならずコストと時間が掛かった。

パイプ配管口ボで配管内を自在に動き回ることができれば、破損箇所を特定でき、改修の負担を

山岳トンネル工事では発破時に大音量の騒音

音の共鳴現象を利用し低周波の騒音低減を実現した事例では、原理上、その効果は特定の周波数に限定される。このため、

ペアス有効活用が可能。重量化も不要で、コンクリートの吹き付けといった手間やコストが掛かからない。

保しながらキツト重量の大幅な軽量化を実現。チルト機構を備えた「パワールートGIII1000」も用意する。

# アドラー心理学 職場で生かして

建築設備技術者協会道支部女子会

13日に開催された建築設備技術者協会北海道支部設備女子会の通常総会

後、At mark(本社・札幌)の佐高美月代氏が「職場の対人関係に生かすアドラー心理学」と題し特別講演した。職場で自分らしく輝くため

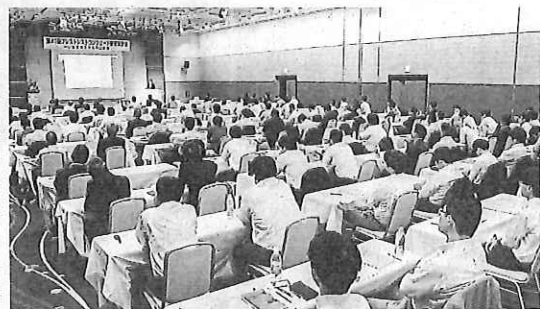
「自分を許すことも大切」と話す



## 横の関係づくり重要 At mark・佐高氏が講演

等の仲間だという意識を持ち、相手を信頼し尊敬すること、その上で相手を傷つけることなく自分の気持ちを伝えることが大切だと唱える。佐高氏は「これらができていない職場は、風通しが良い」と話した。新しい役職や部署に移ると、変化についていけず臆病になってしまうことがある。自分ができていないことに目が向きがちだが、できていることに目を向けてみると自分を信じていることにつながる。劣等感を抱くのは、思い描いた理想の自分に近づこうとしている証拠。無理をせず、小さな目標を一つずつクリアしていくと延長に大きな目標の達成が見えてくる。自分の意見を主張するときは、命令口調ではなく、お願い口調のほうが相手に受け入れられやすい。「すべきな話し方をする人を参考にして、意識して話してみよう」と呼び掛けた。佐高氏自身、自分が不完全な人間であることが許せなかった時期があるという。「自分は、こうでなくては」という気持ちが強すぎて、体を壊したり相手を許せなかったことがあった」と告白した。自分が不完全であることを認めるとき、相手の不完全さも受け入れられるようになった。「不完全である自分を受け入れる気持ちを持つておきたい。自分を許すというのは困難を克服する近道になる」とまとめた。

## 橋梁維持管理など学ぶ PC工学会が技術講習会開催



さまざまな角度からプレストレストコンクリートへの理解を深めた

プレストレストコンクリート工学会は、第47回プレストレストコンクリート技術講習会を14日にホテル札幌ガーデンパレスで開いた。発注機関やゼネコンなどから約190人が参加。「いま求められるPC技術」をテーマに、全国の橋梁維持管理や高速道路リニューアル、災害復旧工事例を通してプレストレストコンクリートの特長を知ってもらった。同工学会の西山峰広理(京大大学院教授)がメイン講師。プレストレスト・コンクリート建設業協会の鈴木洋一(北海道支部長)は「関心の高い4件のテーマが用意されているので、少しでも日々の業務に役立ててほしい」とした。特別講演では、寒地港湾技術研究センターの笹島隆彦(理事長)が「北海道の経済レベルと港のレベル」をテーマに話した。道内の港湾や漁港、空港でプレストレストコンクリートが使われている理由について、「費用対効果を確保するための施工短縮やライフサイクルコスト低減、海洋での品質管理、働き方改革など」と説明。「初期

全国浄化槽団体連合会は14日、2019年度省エネ型浄化槽システム導入推進事業の補助金公募に関する説明会を、札幌市内のセンチュリーロイヤルホテルで開いた。浄化槽管理者らが参加。事業概要や申請方法を学んだ。環境省が実施する事業。合併処理浄化槽に関する、51人槽以上の機械設備などの改修・導入(TYPEI)と、60人槽以下浄化槽管理者らが参加した

### 補助申請

省エネ型